

== 宇電懇ニュース No.111 ==

2004年4月2日

宇電懇事務局（東京大学・理・天文センター）発行

宇電懇ニュース No.111 をお届けします。この号は ryunet による電子メール配信と宇電懇 web ページ (<http://www.nro.nao.ac.jp/udenkou/>)掲載でお伝えします。

すっかり陽気も温かくなり、三鷹の桜も咲きそろいました。
数日オーバーしてしまいましたが、今期最後の宇電懇ニュースをお届けします。

目次

	ページ
I. 宇電懇総会報告.....	1
II. 事務局交代の挨拶.....	4

I. 宇電懇総会 平成 15 年度通常総会

日時：2004/3/22 昼

会場：日本天文学会春季年会会場（名古屋大学）にて

1. ALMA 計画進捗報告（石黒）

ALMA 建設予算が政府原案に含められ、まもなく国会承認される予定

今後のスケジュール

2004年6月に日本の建設参加に関する米欧との協定書に署名の予定

日本が貢献する装置等の概略

- ・ACA(Atacama Compact Array)用アンテナ群 7m鏡×12台 + 12m鏡×4台
- ・サブミリ波を中心とする受信機群（新規3バンドの追加）
- ・ACA用高分散相関器
- ・インフラと運用経費の分担

獲得時間の目標

全観測時間の22.5%程度

台内体制変更

「ALMA計画準備室」から「ALMA推進室」に変更

新体制 = 室長：石黒（継続） Project Manager：長谷川（新規）
Project Scientist(副室長兼務)：川辺（新規）

2. URSI/電波研連関係報告（井上）

2-1. 科学研究費審査員

選出法の変更

2005年度科研費の審査委員から、「関連する研連の“情報提供”に基づいて、
学術審議会が審査委員を審査して決める」こととなり、審査委員の改選数の
2～3倍の人数について“情報提供”をした

（参考）これまでは、「研連からの推薦（審査員定数+数名）を尊重して
学術審議会が決める」だった。

2-2. SKA(Square Kilometre Array)

最新情報は公式 web ページにて公開されている

<http://www.skatelescope.org/>

体制

ISSC(International SKA Steering Committee)が全体を統括

今後のスケジュール

2006Q1 建設地決定

2008Q1 技術的仕様決定

2012 起工

2020 運用開始

日本の関わり

VSOP-2 との協力ほかで日本の寄与が期待されている

2-3. 国際電波科学連合 URSI

AP-RASC 2004 = 国際電波科学連合アジア太平洋地域会議

2004年8月24-27日、中国 青島で開催

アブストラクト締切は延長されて2004/3/31になった

最新情報は公式 web サイトにて公開されている

<http://www.cie-china.org/aprasc2004/>

詳細が不明な点が未だあるので、春日委員より情報が ryunet で提供される予定

URSI 総会

2005年10月に、インド ニューデリーで開催

日本からの参加見込人数の打診が来ている

従来の総会と大差ないと回答する予定

2-4.VSOP-2

現状報告

宇宙理学委員会に提案

提案書の入手希望者は、宇宙研・国立天文台の関係者まで連絡を

仕様：offset 9m 鏡, 3バンド (8,22,43GHz)

宇宙研評価委員会(理学)は NeXT(次期X線天文衛星)を選定。VSOP-2は次点。

理学・工学の各1位の中から宇宙研第1位を選定し、概算要求へ

3. 天文台法人化の状況と今後(近田)

これまでに公表されていることとの変化

- ・人件費と物件費の境はなくなる
- ・任期付きポストの活用：制度設計中
- ・プロジェクト制に移行

宇電懇関係では6プロジェクト

野辺山宇宙電波～ASTE、野辺山太陽電波、ALMA、spaceVLBI、VERA、水沢観測所～RISE
(～の右はサブプロジェクト)

- ・保留事項：3センター(計算・実験開発・情報公開)のミッション再定義と組織改編、随時の人員再配置に関連する制度整備

4. 宇電懇シンポ提案(阪本)

目的：次期天文大型計画の検討に、天文分野内で合意形成の必要

サイエンス面での今後10-20年後を展望

仮タイトル：「次世代天文学 - 大型観測装置とサイエンス」2004/11or12、国立天文台三鷹

共催予定：理論懇、高宇連、光天連、宇電懇

SOC：須佐、千葉、西、和田(理論懇)、鶴(高宇連)、土居(光天連)、阪本(宇電懇)

宇電懇運営委員会、および、今総会で共催を承認した

進行は随時、阪本から ryunet で

5. 活動報告/事務局交代(河野)

主な活動

- ・web ページ整備 <http://www.nro.nao.ac.jp/udenkon/>
- ・宇電懇ニュース電子化 配布の ryunet 化とバックナンバーの web 掲載
- ・各種規約整備
- ・J分科委員選挙実施
- ・宇電懇シンポ「ALMA時代のサイエンスと研究推進体制」開催

決算

支出の部

- ・通信費 26,300 円
- ・事務費 1,790 円
- ・旅費 120,010 円
- 計 148,102 円

収入の部

- ・繰越 373,682 円

次期繰越 225,580 円

今後のスケジュール

次期事務局：大阪府立大学 2004/4～2006/3

II.事務局交代の挨拶

2002年4月1日より2年間、事務局を務めさせて頂きました。

この間、至らぬところも多々あったかと思いますが、

僅かながらも電波天文学関係の情報流通に寄与できたかと思えます。

いよいよALMAも日本の建設参加となりそうで、これから、ますます

日本の電波天文学者の実力が問われるところとなります。

宇電懇の役割も一層重要になることでしょう。

新事務局共々、宇電懇全員の力で頑張りましょう！

(事務局を代表して：半田利弘)

宇宙電波懇談会事務局

〒181-0015 東京都三鷹市大沢 2-21-1

東京大学大学院理学系研究科附属天文学教育研究センター

祖父江義明(Tel:0422-24-5026, FAX:0422-34-5041, e-mail sofue@ioa.s.u-tokyo.ac.jp)

河野孝太郎(Tel:0422-34-5039, FAX:0422-34-5041, e-mail kkohno@ioa.s.u-tokyo.ac.jp)

半田利弘(Tel:0422-34-5062, FAX:0422-34-5041, e-mail handa@ioa.s.u-tokyo.ac.jp)

宇電懇インターネットホームページ <http://www.nro.nao.ac.jp/udenkou/>